

皇海山 2144m～鋸山 1998m

齊藤 整紀

- 2017年6月17日(土) 晴れのち曇り
- メンバー 村山隆 (CL)、齊藤整紀
- 日程 葛西 4:15 (車) ⇒沼田 IC ⇒皇海橋 P 8:20 ⇒不動沢の科尔 10:00 ⇒皇海山 10:55～11:10 ⇒不動沢の科尔 11:55 ⇒鋸山 12:45 (昼食) 13:10 ⇒不動沢の科尔 13:50 ⇒皇海橋 P 15:30 (車) ⇒望郷の湯 (車) ⇒21:00 葛西

梅雨の晴れ間を狙い、友人から関東最後の百名山・皇海山に誘われた。夜明けと共に友人の車で出発、関越道は順調に流れ、120号線も問題無かった。しかし吹き割り滝から右折し、栗原川林道に入ってから様相が一変、地獄のドライブ！カーブはさほどでもないが、道幅が狭く、ほとんどが砂利の凸凹道。落石跡も多く、振動激しく、スピードも出ない。これが1時間余り続いた。

そのため予定より遅い8時過ぎの皇海橋駐車場着となった。気を取り直して、身支度を整え、トイレ兼登山計画受付所に立寄ってから出発。車は橋の手前は25台程に増え、橋の反対側にも同程度の駐車が見られる。深くてもさすが百名山！

不動沢の科尔へのルートは、樹林帯の不動沢から沢登りで科尔を目指す感がある。何度か渡渉を繰り返し、小滝を眺めた後、水の枯れた沢をトレース。詰め易い悪路を凌いで、ようやく展望の開けた不動沢の科尔に至る。団体などが眺望と休息を楽しんでいる。



鋸山の尖った峰とその左下の雪渓は緊張感がある。反対に、これから上る皇海山の方は樹林帯に隠れ、ピークは望むことができない。ダラダラ

登っていくと、鮮やかなピンクの石楠花に出会った。途中20名以上の団体とすれ違い、「頂上は混んでいるよ！」と言われた。やがて足場の悪い急登をこなすと、立派な剣が現れ、程なく山頂に至る。いつしか山頂には雲が懸り、もともと展望のないピークだけに、猶更つまらない。

不動沢の科尔へ戻り、今度は鋸山へ向かう。いきなり立派に開花した石楠花の群生に出くわし、花は更に奥へと連なる。石楠花色のロードは、ロープの急斜面や山頂まで続いた。また爛熟気味の石楠花の群生は六林班下山口方面にも見られ、その艶やかさは、かつて経験のないものである。



振り返ると、山頂に雲を頂く皇海山を望む。深田久弥が言うように、「世に聞こえない」「今なお静寂の中にある」は分かるが、「横につまんで颯爽とした峰頭をもたげ、一気に下の沢まで落ちている姿は、思わず脱帽したい程の気品を備えている」は、私には、到底、得心がいかない。やはり皇海山は、残念ながら私の百迷山の一つに加えた。

しかしながら今回の山旅の収穫は、何といても鋸山で満開の石楠花の群生に会えたことに尽きる。梅雨の晴れ間に輝く優美な花よ！

下山は、整備の行き届かない急斜面に注意し、危なげなく帰還できた。駐車場は、15時を過ぎて、残り5、6台に減っていた。

帰りもガタガタ道に耐えて、「目白の定宿」沼田の望郷の湯に立寄ってから家路についた。(了)